

平成 25 年度 日本学術会議 中国・四国地区会議公開学術講演会
「大災害への備えーいのちと暮らしを守るためにー」
挨拶

日本学術会議中国・四国地区会議、香川大学、香川高等専門学校主催、日本学術協力財団共催によって、今年度の中国・四国地区会議公開学術講演会が開催されるに当たって、日本学術会議を代表してご挨拶を申し上げます。

私ども日本学術会議は、全国の 80 万人を超えるとされる科学者を代表して、科学の発展と科学の反映浸透を図ることを目的に活動している科学者の組織です。科学技術立国という表現がよく使われるように、天然資源の乏しい我が国にあっては、加工技術は重要です。それをより高めるためには、支えとなる理学や工学のといった自然科学の発展が不可欠であり、さらにそうした技術の発展によって形成される社会において、多くの人々が平和に、幸福に、精神的に豊かに、健康に暮らすために、人文社会科学、生命科学等が発展してきたといえます。日本学術会議はそれらの全体を含む総合的な組織です。

科学の発展は、一方で、リスクの多い社会を作り出すとも指摘されます。東日本大震災が、海岸地区に発達した町や集落を破壊し、原発事故にまで及んだのは、地域開発や技術の発達で、海岸沿いに集積が形成されたことと表裏の関係にありますし、科学技術の発展で原子力発電所が建設されたからこそ生じた災害ということが出来ます。したがって、科学と技術は、発展に向けての一方向ばかりではなく、時としてそれが人間社会に及ぼす負の効果についても振り返り、出来る限りそれを抑える科学をもまた発展させなければなりません。

今日の学術講演会のテーマは、東日本大震災から如何に多くの教訓を学び取り、心配される南海トラフ巨大地震災害の被害軽減に結び付けていくために企画されました。開催地の高松は、瀬戸内海に面しており、津波の影響は比較的少ないと言われていたのですが、地震動による被害、さらに高知県や徳島県など大きな被害が想定される地域に対する救援・支援基地としての役割など、大震災に対応して備えるべき事柄は少なくありません。是非、講演会を通じて、災害被害の軽減について考えて頂ければと存じます。

日本学術会議の地区会議は、全国 7 地区にあり、それぞれが様々な活動を行っています。今回の中国・四国地区会議学術講演会では、国土交通省四国地方整備局、香川県、高松市、さらに東日本大震災の総合的対応に関する学協会連絡会の御後援を受けたことに感謝申し上げます。さらに、準備に当たって頂いた、日本学術会議中国・四国地区会議運営協議会代表幹事の嘉門雅史先生をはじめとする地区会議の皆様のご尽力に感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

2013 年（平成 25 年）12 月 7 日（土）
日本学術会議会長 大西隆